

# 下市町

## 横断歩道橋長寿命化修繕計画

平成 30 年 1 月  
(令和 4 年 9 月改訂)  
下市町 建設課

## 1. はじめに

平成 26 年度から、5 年に 1 度の近接目視点検が義務化され、平成 28 年度末までに全橋である 1 橋の点検が完了し、判定区分Ⅲ（早期措置段階）と診断された。判定区分Ⅲは次回点検までに修繕を終えることが望ましいとされており、早期に修繕を行うため、令和元年度において補修工事を実施し、同年定期点検を行い、判定区分はⅠに回復した（表 1）。

そこで、本町は次の観点から計画をとりまとめ、横断歩道橋長寿命化修繕計画（横断歩道橋個別施設計画）とする。

表 1 下市町管理横断歩道橋の定期点検と診断結果（令和 4 年 3 月末現在）

管理者名	点検計画数	点検実施数	判定区分内訳			
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
下市町	1	1	1	0	0	0

## 2. 横断歩道橋長寿命化修繕計画のポイント

- 定期点検のⅢもしくはⅣ判定施設の横断歩道橋修繕を優先的に取り組む。
- 当面 10 年間（早期措置対応が必要となる期間）の計画とする。
- 令和元年度の 1 巡目点検が終わった後、予防保全型の計画を作成する。

## 3. 横断歩道橋長寿命化修繕計画

横断歩道橋長寿命化修繕計画は下記および別紙 1（横断歩道橋修繕事業計画）とする。

### ① 対象施設

対象施設は、下市町管理の 1 橋とする。

### ② 計画期間

計画期間は令和元年度から令和 10 年度の 10 年間とする。

### ③ 対策の優先順位の考え方

町管理の横断歩道橋は 1 橋である。修繕時期に関しては点検結果でⅢ判定となった場合には、次回の点検までに対策を実施し、Ⅳ判定となった場合には即時対策を実施する。

④ 新技術等の活用方針

定期点検の効率化や高度化、修繕等の措置の省力化や費用縮減などを図るために、新技術情報提供システム（NETIS）や点検支援技術性能カタログなどを参考に活用を検討する。

令和3年度～10年度において、施設の点検・修繕等に対し、新技術を活用することを目標とする。

⑤ 費用縮減方針

定期点検結果から得られた損傷状況をふまえて、予防保全段階（Ⅱ）判定箇所についても修繕等を検討することで、高コスト化を回避し、ライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図る。

横断歩道橋は1橋であり、通学等にも利用されることから集約化・撤去等の可能性が極めて少ないため、令和3年度～10年度の間には新技術等を活用し、将来の維持管理と修繕にかかる費用の削減を目指します。

⑥ 対策内容および実施時期、対策費用

各施設の対策内容および実施時期、対策費用は別紙1のとおりとする。

別紙1 下市町 横断歩道橋修繕事業計画

No.	歩道橋名	(フリカナ)	路線名	架設年次 (西暦)	橋長 (m)	幅員 (m)	所在地 (大字)	直近点検結果(H29~R3)			次回点検 予定年度	補修計画(○=着手予定年度、◎=完了予定年度)										主な対策内容	対策に係る 概算工事費 (百万円)		
								点検年度		健全性区分		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10				
								(西暦)	(和暦)																
1	明大歩道橋	(メイダイホトウキョウ)	町道下阪・田中線	1971	12.4	1.5	下市	2019	令和元年度	I	令和6年度	◎												当て板補修等	36